「シンセサイザーの教育実践への活用」

領域名：精神保健看護

報告者：森下智基

教育及び実践の課題

本学の精神保健看護学では、精神保健福祉法上の隔離については講義で取り扱うがそれ以外の隔離については取り扱っていない。2020 年、コロナウイルスが日本で流行し、症状のある人は病院へ入院、軽症や無症状の人たちはホテル療養を余儀なくされた。報告者はコロナウイルス感染者宿泊療養事業に参加し、隔離環境をイメージしていなかった療養者の戸惑いや隔離中の療養者の心理的変化を感じたと同時に、コロナウイルスが蔓延しているこの状況を学生がどう認識しているのか、今後の学生自身の看護に活かせるのか疑問に思った。療養者・患者に対する隔離環境の説明の必要性、隔離中の心理的変化を学生に伝えることで、今後の看護実践につなげられるのではないか、学生が隔離された時の戸惑いや心理的変化が最小限に押さえられるのではないかと考えた。

活用した論文の概要

本文献は、感染症における隔離が患者に与える影響について報告された 16 文献のレビューである。隔離と不安や抑うつの関連については様々な報告があった。また、隔離中のケアによって精神的動揺に差があったとの報告もあった。患者の心理に隔離が悪影響を与える要素として、本人の意志に反して隔離されること、隔離環境・期間の予測がつかないこと、病状変化への不安等が報告されていた。また、隔離前に患者に事前教育をすることによって不安を減少させることを提案していた。

教育及び実践への活用

今回、精神保健看護学I（2 年次前期）で、「感染症隔離による心理的影響と必要なサポート」というテーマで講義を行った。コロナウイルス感染者療養施設や療養者の様子、対象の心理に隔離が及ぼす影響、隔離前･隔離中の心理的サポートについて講義し、学んだことを記載してもらった。その結果、療養施設の環境や状況、療養者のストレス、学生自身の自粛生活の様子についての感想が約 6 割で内容は伝わった印象だったが、この学びを今後どう活かしていくかまで記載できている学生はほとんどいなかった。どう活かしていくかまで考えが及ばなかった原因として、2 年次は実習の経験が浅いために看護の実際をイメージすることが難しいことが考えられた。講義対象の学生を 1 人の患者を受けもち看護展開を経験している 3 年次にすること、講義後にこの学びを看護にどう活かしたいかを学生同士で話し合う時間を設けることで学びが深まる可能性があると考えている。

自身のメンタルコントロール、対象の心理的サポートは精神保健看護の役割である。将来、同様の事態が起きる可能性は大いにあるため、学生がより状況をイメージしやすい方法を検討し、教育を継続していく必要がある。

参考文献

C.Abad, A.Frearday, N.safdar (2010). Adverse effects of isolation in hospitalised patients : a systematic review, Journal of Hospital Infection, 76, 97-102.